

目 次

はじめに	iii
第1章 経過報告	1
1. 1 検討委員会の設置目的	1
1. 2 検討事項	1
1. 3 開催状況	1
1. 4 住民アンケート調査	1
第2章 津波防災対策の現状と課題	3
2. 1 津波浸水予測図の活用	3
2. 1. 1 津波浸水予測図の作成状況	3
2. 1. 2 国の動向	6
2. 1. 3 課題	8
2. 2 津波情報等の収集・伝達	11
2. 2. 1 津波予報の種類	11
2. 2. 2 津波予報伝達の流れ	11
2. 2. 3 本県の津波観測体制の現状	14
2. 2. 4 課題	18
2. 3 津波避難体制	20
2. 3. 1 避難標識	20
2. 3. 2 避難路、避難場所及び避難施設	23
2. 3. 3 災害時要援護者（災害弱者）への対応	23
2. 3. 4 課題	24
2. 4 津波防災意識の高揚	25
2. 4. 1 津波防災教育の実施	25
2. 4. 2 津波避難訓練の実施状況	25
2. 4. 3 課題	26
第3章 今後の津波避難対策の基本的方向	29
3. 1 津波避難計画の作成	29
3. 1. 1 津波浸水予測図の作成	29
3. 1. 2 津波避難計画の作成	32
3. 2 津波情報等の収集・伝達体制の整備	33
3. 2. 1 津波予報伝達体制の整備・充実	33

3. 2. 2	津波観測機器の有効利用	35
3. 3	津波避難体制の整備	36
3. 3. 1	避難標識の整備・統一化	36
3. 3. 2	一時避難場所・避難経路の選定	37
3. 3. 3	避難施設の整備	39
3. 3. 4	避難時の災害時要援護者（災害弱者）対策	41
3. 4	津波防災の啓発	42
3. 4. 1	津波防災教育の充実	42
3. 4. 2	津波避難訓練の実施	43
第4章	まとめ	45

資料編

1	津波避難対策検討委員会設置要領	47
2	津波避難対策検討委員会の開催経過	49
3	住民アンケートの調査結果	51

はじめに

岩手県ではその位置、海岸の形状などから、過去に、明治 29 年の三陸地震津波（本県での死者・行方不明者 18,158 人）、昭和 8 年の三陸地震津波（同 2,671 人）、昭和 35 年のチリ地震津波（同 62 人）など、有史以来、多くの津波を受け、そのたびに尊い人命と多くの貴重な財産が失われてきました。

その教訓から、国、県、市町村では、（湾口）防波堤、防潮堤、水門等の整備、防災行政無線や避難施設等の整備、津波防災マップの津波避難対象世帯への配布、津波防災訓練の実施、自主防災組織の育成・強化などといった対策を講じてきたところであり、全国的に見ても、津波防災対策においては先進的な取り組みを行っている地域であります。

しかしながら、平成 8 年 2 月以来、本県沿岸への津波警報は発表されておらず、また、沿岸市町村で実施している津波防災訓練への参加者が年々減少する傾向にあるなど、住民の方々の津波に対する防災意識の風化が懸念されているところであります。

また、これまで各種の津波観測装置や津波浸水予測図が防災関係機関のご努力により整備されていますが、それらをこれから将来、どのように活用し、あるいは、どのような方向に整備していけば、迅速な住民避難につなげることができるのか、さらに、住民の方々が自らの命、自らの地域をまもるため、何をすべきかということをいかに認識していただくかが、今後の課題であろうかと思えます。

このようなことから、学識経験者、沿岸市町村の自主防災組織の代表者、県・沿岸市町村や関係行政機関の職員などからなる「津波避難対策検討委員会」を平成 13 年 9 月に設け、約 1 年間にわたり、今後の津波避難対策の基本的な方向について検討を行い、報告書としてとりまとめました。

今後、この報告書が、県、市町村等の津波防災対策のみならず、地域の開発に際して津波に弱いまちにならないように、十分に活用されることを期待するものであります。

終わりに、この報告書を取りまとめるに際しご協力いただきました委員の皆様、また、アンケート調査にご協力いただきました沿岸住民の皆様などに対し、深く感謝申し上げます。

平成 14 年 12 月

津波避難対策検討委員会

会長 首藤伸夫

IWATE

岩手県

